

マイクの使用も、正しい発音を伝えたいというYumi先生のお心遣い。日本語にはない英語独特の発音ができるよう、幼少期から口のトレーニングをしておいた方がいいそうです。小さい頃は人目を気にせず正確に発音を真似しようとしてくれるけれど、小学校高学年ぐらいになると、恥ずかしがってやってくれなくなるとのこと。「小さい時期、七面相八面相どんな顔でもやってくれる時期に楽しんでやってもらえるといいかなと思ってます」とおっしゃっていました。

ETMについて

先生方のお心くばりは英語面のみにとどまりません。先生方の英語あそびのベースとなる Education Through Music (ETM) はそもそも、言語のみならず、認知、音楽性、そして社会性など、多角的な育ちを促すプログラムなのだそうです。Yumi先生は「英語あそびの中で、コミュニケーションが、人と関わることが好きっていうことを経験することが大事」とおっしゃっていて、またその経験を積む前提として母語の育ちを重視されています。「まず母語でしっかり人と関わることが大切。友達と関わるゲームでは、まず日本語でできるまで何度も練習します。英語の台詞だけ覚えても意味がなくて、ちゃんと言葉に意味が乗ってないとだめなんです」とYumi先生。

家庭におすすめ

もしおうちでも英語に触れさせたいと思うならどのような教材がいい

かお伺いすると、子どもひとりで視聴するCDやDVDよりも、親と一緒に見る絵本がおすすめと、Rie先生が教えてくださいました。「大好きなママの声で英語を聞くと子どもは安心し、いい触れ合いの時間となるため記憶に残りやすくなります」とRie先生。親自身の発音が美しいかどうかは気にしなくてOK!「絵本を読むにせよ、一緒に歌を歌うにせよ、ともかくお母さんとの幸せな時間になるようにしてください」とYumi先生。親としては「何としても英語ができるようにさせなければ!」と思いがちですが、Yumi先生によると親の英語への苦手意識から闇雲に英語学習を子どもに強要すると、子どもが英語嫌いになるケースが多いそう。親として、何のために英語を学ばせたいか—例えばグローバルな活躍に備えて英会話を身につけさせたいとか、英語でも情報収集ができるように読解力をつけさせたいとか—そういった目標を見極めて学ばせましょう、と先生方はおっしゃいます。何より大切なのは子どもの興味を育てること! 楽しくなければ続かないので、子どもが興味をもつような英語学習のきっかけを探し、子どもが自然と英語に触れ続けられるようにすると、英語力が伸びていくそうです。そして親も英語に触れるのを楽しむこと! 「子どももお母さんが楽しんでることをやります。お母さんが楽しんで英語に触れ続けていると子どもも続けますよ」とYumi先生はおっしゃいます。

目標

最後に先生方に、英語あそびにおける年中、年長での目標をうかがいました。

年中の間はとにかく英語に慣れること。年中では“A-Hunting We Will Go”のようにクラス全体で遊ぶことが



多い一方、年長になるとパートナーワークが増えるそう。パートナーと一緒にアイデアを出しあって一緒に表現を発表したりするそうです。「仲良しの子とペアじゃないとイヤ! でなくて、別に誰と組んでもどうってことないなってことを、小学校の英語活動でペアワークをさせられる前に経験してほしい」とYumi先生。年長での目標、まさに社会的スキルの獲得ですね!

子どもを木に例えるなら、英語という「枝葉」だけでなく、あらゆる能力の元となる「根っこ」の部分を育む、Yumi先生とRie先生の英語あそび。そこには遊びとしての楽しさと、様々な意味での学びを得る喜び、その二つがバランス良く含まれていました。「そのバランスがちょうどいいと感じてくれてると思います。子どもたちが『また来てね』とか『もっと遊びたかった』って言うてくれることが答えかなと思います」とYumi先生。子どもたちは、こんな先生方に幼稚園の時に出会えて幸せだな、と思いました。Yumi先生、Rie先生、本当にありがとうございました!